

コミュニティ・アートのボランティアについての尺度開発の試み A Test of Developing the Scale of Peer Support in Community Art

佐々木 美加

Mika Sasaki

明治大学

Meiji University

mikasa@meiji.ac.jp

概要

本研究ではコミュニティ・アートのボランティアの心理過程の測定尺度の開発を試みた。コミュニティ・アート(美術館教育普及活動と地域芸術祭)のボランティアに対するインタビューの内容分析(佐々木, 2020ab)を基に尺度項目を作成し, 全国の美術館と地域芸術祭のボランティアの参加経験者に対して調査を行った。分析の結果, 芸術コミュニティのボランティアの態度として「地域愛着・交流」「非日常的豊かさ」「人生の転機と創造性」の3因子が見出され, 構造的妥当性が確認された。

キーワード: コミュニティ・アート(community art), ボランティア(peer support), 心理尺度 (psychological scales)

1. はじめに

本研究は, コミュニティ・アートのボランティアの心理的側面を解明を目的としている。芸術コミュニティについては, 芸術家ムラなどアーティストのコミュニティは, 古くから存在していた。これに対し, 近年ではコミュニティ・アートが広がりを見せている。増山(2001)によれば, コミュニティ・アートとは, アートの享受者と創造者が相互転換する過程で, 人と人を結び付け, アクティブな場, コミュニティを形成していくと解説している。佐々木(2020a)は, こうしたコミュニティ・アートに類する芸術関連コミュニティについて, アートの位置づけと参加者の行動や特徴に基づいて分類した(図1 コミュニティ・アートの分類)。

まず, アートをサポートの道具として位置づけるコミュニティとして, アート・セラピーの機能をもつコミュニティを分類した。具体的には, 病院アートやコミュニティ・センターが挙げられる。ここでは癒しや精神面での支援を必要とする人々に対し, アートがサポートの道具として機能していると考えられる。

また, ユニバーサルアートについても, 障害者のアクティビティの支援としてアートが道具的に機能していると考えられ, アートがサポート機能を果たすコミュニティと位置づけた。これらをサポート機能型コミュニティ・アートと呼ぶことにする。

一方, アートが共同作業の機能をもつコミュニティとして, アート・プロジェクトと美術館の美術教育普及活動を分類した。アート・プロジェクトは, 地域芸術祭や震災復興のアート・プロジェクトが挙げられる。これらは, 芸術祭や復興アート・プロジェクトの作品の制作に, ボランティアが参加する。

また, 美術館の教育普及活動では, 教育等の活動を地域ボランティアなどがサポートを行う。すなわち, 美術教育に美術館のコミュニティのメンバーがボランティアとして共同参加する。そのため, こうした芸術祭や美術館の活動を, 共同作業型のコミュニティ・アートと名付ける。先ほどサポート機能型のコミュニティ・アートに分類したユニバーサルアートは, 障害者施設や特別支援学校などで行われることが多い。この場合, アート

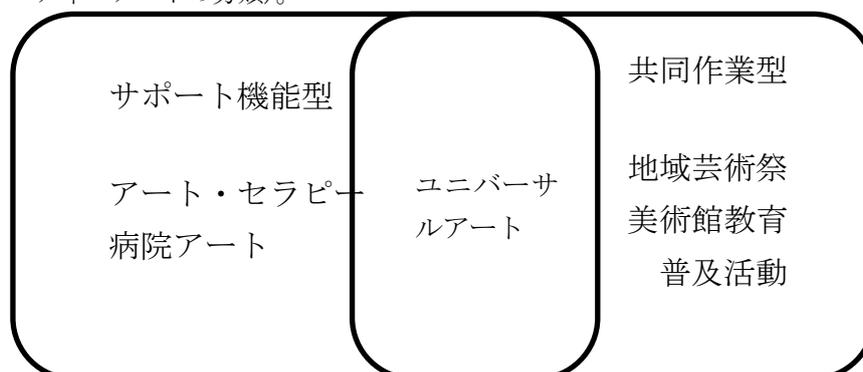


図1 コミュニティ・アートの分類

作品を制作する障害者とそれを支援する職員や教員は制作に参加することになる。従って、サポート機能型であると共に、共同作業型のコミュニティ・アートであり、両方にまたがるものと考えられる。

今回は、サポート機能型とは独立の、アート・プロジェクトと美術館の教育普及活動の共同作業型のコミュニティ・アートについて取り上げる。というのも、増山(2001)が指摘する「アートの享受者と創造者が相互転換する」ところが明確だからだ。こうした観点から、コミュニティ・アートのボランティアの心理過程を研究において、地域芸術祭と美術館の教育普及活動を選定した。

しかし美術館ボランティアと地域芸術祭ボランティアは、いずれも芸術に関するサポート活動であるにも関わらず、統合して論じられることはほとんど無かった。美術館のボランティアは生涯学習の観点から注目されることが多く(岡庭, 2012; 栗田, 2013), 地域芸術祭のボランティアは地域再生や地域と人のつながりの再構築と捉えられることが多かった(北川, 2014, 2015)。こうした芸術関連ボランティアは、芸術作品の鑑賞や制作のサポートという違いはあっても、両者に共通する点と相違点があることが、インタビュー調査によって明らかになった(佐々木, 2020ab)。本研究では、美術館のボランティアと地域芸術祭のボランティアの活動の心理的特徴を明らかにし、測定尺度を作成する。このコミュニティ・アートのボランティアの測定尺度が、芸術に関連するサポート活動を求める人が、自分に適したコミュニティ・アートのサポート活動に参加するための支援ツールとなることを目標とする。なお、本研究の実施にあたり明治大学ヒト・動物を対象とした研究等に関する研究倫理委員会(商学部)の承認を受けて行っている(商-2)。

2. 予備調査

目的 美術館ボランティアと地域芸術祭ボランティアの参加者を選定するスクリーニング調査を目的として予備調査を行った。

実施時期 2020年12月3日～12月8日

調査対象 全国の都道府県の成人男女30000人(男性14615人・女性15385人, 平均年齢49.89歳, $SD=16.08$)。地域の比率は北海道地方4.8%, 東北地方5.3%, 関東地方43.2%, 北陸地方3.1%, 中部地方10.8%, 近畿地方19.0%, 中国地方4.7%, 四国地方2.3%, 九州地方6.8%

であった。また、年齢層は20代14.3%, 30代17.6%, 40代17.5%, 50代17.7%, 60代17.1%, 70代15.9%であった。

方法 モニターリサーチ会社(株)マイボイスコムを通してインターネット調査を行った。調査の冒頭に調査の目的としてボランティアに関する調査であることが記載され、調査に答えたくない場合は答えなくてよいこと、途中でやめても構わないことが記載された。調査参加者への謝礼は、(株)マイボイスコムによってモニター謝礼によって支払われた。

調査項目 質問項目のうち、年齢・性別・居住地域・職業分類は、モニターの登録項目として調査への使用することが承諾されていたため設問から省かれた。設問1では参加したことがあるボランティア活動について、複数回答を求めた。選択肢は、平成30年度都民等のボランティア活動等に関する実態調査の1-2「ボランティア活動の参加経験」の項目を用いた。設問1の選択肢のうち、「スポーツ・文化・芸術・学術に関連した活動(東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連を除くスポーツ関連のボランティア、観光ガイドボランティアなど)」を選択した場合にのみ設問2に進んだ。設問2では、美術館関連のボランティアと地域芸術祭ボランティアの参加者を選定するため、「美術館や博物館が主催する展覧会や行事(美術教育普及活動や美術館主催ワークショップなど)のボランティア活動」「地方自治体や公益法人等が主催する芸術祭(音楽祭・映画祭を除くビエンナーレ, トリエンナーレなど会期20日以上, 開催日数11日以上)の芸術祭」の2つの項目について、参加の経験を尋ねた。

結果 予備調査の結果、美術館に関するボランティアのみ参加経験者106人, 地域芸術祭のみ参加経験者102人, 両者に参加経験者217人の計322人が選定された。

3. 本調査

目的 芸術関連ボランティアの心理測定尺度を開発することを目的としている。調査は、美術館ボランティアと地域芸術祭ボランティアに対して実施し、その特徴を明らかにするものである。

実施時期 2020年12月17日～12月21日

調査対象 予備調査で選定された調査対象者326人で(男性183人, 女性143人, 平均年齢46.41歳,

SD=16.79), 美術館ボランティア, あるいは地域芸術祭ボランティアのいずれか一方, または両方の参加経験者であった。

方法 モニターリサーチ会社(株)マイボイスコムを通してインターネット調査を行った。調査の冒頭に調査の目的としてボランティアに関する調査であることが記載され, 調査に答えたくない場合は答えなくてよいこと, 途中でやめても構わないことが記載された。調査参加者への謝礼は(株)マイボイスコムによってモニター謝礼によって支払われた。

調査項目 予備調査でも用いた美術館ボランティアと地域芸術祭ボランティアの参加を尋ねた。また, それらのうち, より長い参加あるいは深くかかわっていると思うものをどちらか一つ選択を求めた。選択した回答により, 選択した芸術関連ボランティアについての設問に進んだ。芸術関連ボランティアについての設問では, 態度測定項目 87 項目に対して 7 件法 (全くそう

思わない〜非常にそう思う)で回答を求めた。芸術関連ボランティアの態度測定項目は, コミュニティ・アート (美術館教育普及活動および地域芸術祭) のボランティアに対して行ったインタビューの内容分析 (佐々木, 2020ab) をもとに作成された 87 項目であった。項目の内訳は, アート愛着・創造性 10 項目, 個人的変化・内発性・創造性 27 項目, 地域愛着 18 項目, 人間関係・対人距離 32 項目であった。

4. 結果

芸術関連ボランティアの態度測定項目に対し, 因子分析 (最尤法, プロマックス回転) を行い, 固有値 1 を基準として因子を抽出した。その結果, 17 因子が抽出されたが, 複数の因子に因子負荷量が分割された項目が多く見られたため, これらを排除して再度因子分析を行う作業を繰り返した。最終的に 3 因子解が得られた (see Table.1.)。

Table. 1. 芸術関連ボランティア尺度

	因子			共通性
	I	II	III	
地域愛着・交流 ($\alpha = .814$)				
活動地域の素晴らしさを伝えたい	.739	-.067	.017	.504
活動する地域に愛着がある	.670	-.016	.029	.456
活動で地域の魅力を伝えたい	.667	.038	.036	.504
活動によって地域の人たちと交流することが出来る	.666	.010	-.040	.425
活動で地域に貢献したい	.661	.051	-.026	.463
非日常的豊かさ ($\alpha = .779$)				
活動では, 普段会えないタイプの人と出会えた	-.061	.716	.003	.464
活動でアートに触れることができるのが良い	-.062	.688	-.035	.417
活動で普段できない仕事ができるうれしい	.055	.676	.034	.520
活動の場は人生を豊かにしてくれる	.130	.630	-.015	.505
人生の転機と創造性 ($\alpha = .801$)				
活動の影響で作品を制作するようになった	-.061	-.069	.844	.641
活動が生活の中心を占めている	.059	-.047	.746	.585
活動が人生の転機となった	.027	.140	.676	.550
	寄与率 (%)	37.886	14.817	9.721
	累積寄与率 (%)	37.886	52.703	62.425
	因子間相関			
	I	1.000	.599	.519
	II		1.000	.266

これに対し共分散構造分析を実施した結果、適合度指標は、 $\chi^2(51)=72.240$, $p=.027$, $GFI=.965$, $CFI=.984$, $RMSEA=.036$ であった。モデルの当てはまりは良好であると考えられ、構造的妥当性が確認された。第1因子は「地域愛着・交流」、第2因子は「非日常的豊かさ」、第3因子は「人生の転機と創造性」と命名した。

5. 考察

本研究では、美術館ボランティアと地域芸術祭ボランティアのインタビューの内容分析から作成した質問項目を全国の美術館ボランティア・地域芸術祭ボランティアの経験者に対して調査を行った。その結果、構造的には妥当性の高い尺度を開発することが出来た。この尺度を用いて、美術館ボランティアと地域芸術祭ボランティアの特徴を明らかにすることが出来るだろう。

しかし、これまで芸術関連ボランティアについての測定尺度は研究されてこなかったため、併存的妥当性については検討することが出来なかった。今後の課題としては、芸術関連の活動やコミュニティの測定尺度との併存的妥当性を検討すること、また芸術関連以外の種類のボランティアの測定尺度との比較検討も行い、精度の高い尺度を作成しなければならないだろう。

文献

- [1] 北川フラム(2014). 美術は地域をひらく 大地の芸術祭10の思想. 現代企画室
- [2] 北川フラム(2015). ひらく美術—地域と人間のつながりを取り戻す. ちくま新書
- [3] 栗田真司 (2013). 生涯学習としての「博物館における教育普及活動」. 大学改革と生涯学習: 山梨学院生涯学習センター紀要, 45-73.
- [4] 増山尚美(2001). コミュニティ・アートに関する一考察. 北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要, 77-91.
- [5] 岡庭義行(2012). 博物館法改正と学芸員養成. 帯広大谷短期大学紀要, 49, 1-10.
- [6] 佐々木美加(2020a). 美術館ボランティアのコミュニティ形成の心理過程(1): 世田谷美術館実施アンケートの内容分析. 日本コミュニティ心理学会第23回大会発表論文集, 46-47.
- [7] 佐々木美加(2020b). 地域芸術祭におけるボランティア活動の心理過程: 大地の芸術祭ボランティアに対するインタビューの内容分析. 日本社会心理学会第61回大会発表論文集, 2407.
- [8] 東京都生活文化局(2018). 都民等のボランティア活動等に関する実態調査.
https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/chiiki_katsudo/kyoujo/files/0000000849/h30_volunteer_report.pdf